

道徳だより

平成20年9月22日
No. 1
小松工業高校 総務部

★魅力的で多様な「在り方生き方」の 授業を構想しよう

魅力的で多様な授業を構想するポイント

在り方生き方(道徳)の授業が子どもの心に響き、やりがいのあるものになるようにするためには、次のような点に配慮しながら授業の構想に臨むことが大切です。

- ア 在り方生き方(道徳)の時間の特色や役割を明確にして構想する。
- イ 授業の構想を表現する学習指導案を、教師の思いが表れるものとする。
- ウ 多様な在り方生き方(道徳)資料を生かすように努める。
- エ 生徒の発達段階や実態を柔軟にとらえて学習活動を構想する。
- オ 学習の場、時間、指導体制、学習集団などを工夫する。

※在り方生き方(道徳)の時間については、生徒が本気になって取り組む優れた実践が多く見られる一方で、例えば、形式化した指導や徳目を教え込むにとどまるような指導が、問題点としてよく挙げられます。その結果、「資料や話がつまらない」「はじめから分かっていることしかない」などと、生徒の心の内奥に届かない授業になっている場合も少なくありません。

※授業づくりのための3つの着眼点

- ① 教師の思いや視点だけで主題をつくっていないか
- ② 生徒に主人公の気持ちや考えを問うだけで終わっていないか
- ③ 生徒の多様な考えを並べるだけの授業としていないか

生徒の問題意識を主体に、内面化にせまる、多様さを生かす



道徳だより

平成20年9月29日
No. 2
小松工業高校 総務部

★「人間としての在り方生き方」に関する 教育とは…

※学習指導要領に「在り方生き方」という言葉が登場したのは平成元年改訂の学習指導要領からです。現行(平成11年改訂)の学習指導要領 総則第1款2には次のように記されています。

学校における道徳教育は、生徒が自己探求と自己実現に努め国家・社会の一員としての自覚に基づき行為しうる発達段階にあることを考慮し人間としての在り方生き方に関する教育を学校の教育活動全体を通じて行うことにより、その充実を図るものとし、各教科に属する科目、特別活動及び総合的な学習の時間のそれぞれの特質に応じて適切な指導を行わなければならない。

→「道徳」教育と「人間としての在り方生き方」教育は表裏一体
また、学習指導要領 総則 解説には、以下のような記述が見られます。

人間としての在り方生き方に関する教育は、学校教育活動全体を通じて各教科・科目及び特別活動のそれぞれの特質に応じて実施するものであるが、特に公民科の『現代社会』および『倫理』、特別活動にはそれぞれの目標に『人間としての在り方生き方に関する教育』を掲げており、これらを中核的な指導の場面として重視する必要がある。

★「人間としての在り方生き方」とは…

※中学校には「生き方」という用語は出てきますが「在り方生き方」という用語は出てきません。高校生の発達段階に対応して「在り方生き方」という用語は出てきているようです。人間としての在り方に深く根ざした、すなわち、人間性の本質にさかのぼって人間としてのよりよい生き方を考えさせる教育が、「人間としての在り方生き方」に関する教育なのではないでしょうか。



道徳だより

平成20年10月1日
No. 3
小松工業高校 総務部

★「道徳教育」の目標・・・

※学校における道徳教育の目標は、小学校、中学校、高等学校を一貫して、次のように示されています。（学習指導要領 総則 より）

道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を家庭、学校、その他社会における具体的な生活の中に生かし、豊かな心を持ち、個性豊かな文化の創造と民主的な社会及び国家の発展に努め、進んで平和的な国際社会に貢献し未来を拓く主体性のある日本人を育成するため、その基盤としての道徳性を養うことを目標とする。

★「道徳性」とは・・・

※人間としての本来的な在り方やより善い生き方を目指してなされる道徳的行為を可能にする人格的特性であり、人格の基盤をなすものです。一般に、以下に示す諸様相を備えた構成とされています。

- 道徳的習慣・・・長い間繰り返して行われるうちに習慣として身に付けられた望ましい日常的行動の在り方（基本的生活習慣）
- 道徳的心情・・・道徳的価値を望ましいものとして受け取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情のこと
- 道徳的判断力・・・それぞれの場面でどのような考え方や行動をすることが善であり、悪であるかを判断する知的な働き
- 道徳的実践意欲及び態度・・・道徳的習慣を基盤として、道徳的心情、判断力によって価値ありとされた行動をとろうとする傾向や状態

※我が国の教育の目的は、教育基本法に明示されているとおり、「人格の完成」にあります。人格の完成を「すぐれた人間性を備えた人間となること」ととらえるならば、教育とは知識の切り売りではなく、究極的には道徳教育であると言えるのではないのでしょうか。そのため、学校の教育活動全体を通じて、道徳教育を行うことが求められているのかもしれませんが。



道徳だより

平成20年10月6日
No. 4
小松工業高校 総務部

★魅力的で多様な「在り方生き方」の 授業を構想しよう ー道徳編ー

道徳の時間の特色や役割を明確にして構想する

◎ 道徳的価値の自覚を大切にした学習指導過程

道徳の時間の学習指導過程としては、右のような流れが一般的に見られますが、学習内容や生徒の実態などに応じて柔軟に工夫することが大切です。

特に展開段階では、生徒が資料の世界に入り込んで登場人物の行為から感銘を受けたり、自分自身を振り返ったりして道徳的な問題を追究します。

導入・・・主題に対する興味や関心を深め、学習への課題をもち、意欲を高める
展開・・・資料による話し合いや自分自身を見つめるを通して、ねらいとする道徳的価値の自覚を深める
終末・・・話し合いをまとめたり道徳的価値に対する思いや考えを温めたりして、今後につなげる

◎ 教師のねらいや意図を表す学習指導案の工夫

学習指導案は教師の授業の設計図です。教師はねらいを達成するために、教師の意図を最も表しやすい形にすることが大切です。また、見る人にとって分かりやすい案になるよう心掛けることが求められます。例えば、展開の概要をどのように表現するかについて考えるだけでも、右のように様々な形式の枠組みを発想することができます。

・指導案の柱立てに授業の特色を出す
・指導過程の表し方や、展開を書く枠組みなどに教師の考えを出す
・体験活動や他の教育活動、事前、事後の指導とのかかわりなどを明記するなど

※指導の基本的な方向を明らかにし、指導案の内容や表し方も創意工夫し、授業がより魅力的で多様なものになるよう努力したいものです。



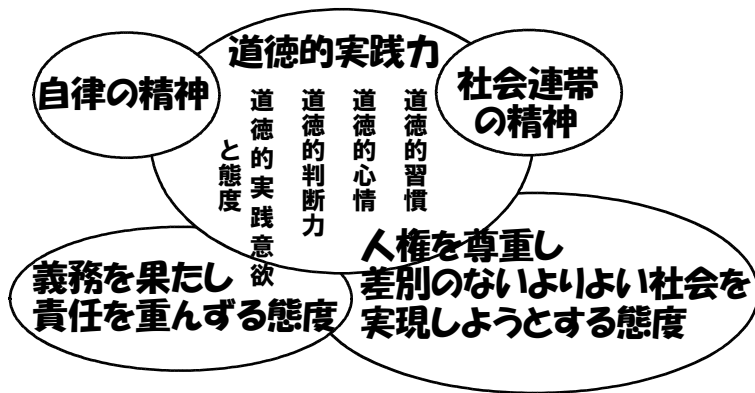
道徳だより

平成20年10月8日
No. 5
小松工業高校 総務部

★「在り方生き方」教育の方法・・・

道徳教育を進めるに当たっては、特に、道徳的実践力を高めるとともに、自律の精神や社会連帯の精神及び義務を果たし責任を重んずる態度や人権を尊重し差別のないよりよい社会を実現しようとする態度を養うための指導が適切に行われるよう配慮しなければならない。

※この学習指導要領の総則に明示された内容は、道徳教育の基本として厳守しなければなりません。



★道徳的実践力とは・・・

道徳的実践力とは、道徳性を支える内面的な資質を意味するものであり、この道徳性を支える内面的資質は道徳的習慣、道徳的心情、道徳的判断力、道徳的実践意欲と態度から構成されています。(道徳だより No.3 参照)

※学校における道徳教育は、目標の達成を目指し、教育活動全体を通じて指導し、実践力として身に付くよう指導しなければなりません。単なる知的理解に留まってはなりませんし、ましてそれらの一方的な注入になってはいけません。



道徳だより

平成20年10月10日
No. 6
小松工業高校 総務部

★魅力的で多様な「在り方生き方」の 授業を構想しよう - 道徳編 その2 -

用いる資料を多様に考え工夫して生かす

◎ 道徳の時間の資料の多様化

道徳の時間で用いる資料が、生徒にとってどう受けとめられるかが、授業の成否に大きくかかわります。道徳の時間では読み物資料が多くなるのはその特色から当然ですが、より魅力的な読み物資料を開発するとともに、生徒の心に響く多様な表現形式の資料を選び、開発することが大切です。

- ・資料とその素材を多方面から集める
- ・教師自身が魅力を感じる資料を選び出す
- ・資料の表現形式を柔軟に発想する
- ・活動が発展する資料の形式を工夫するなど

◎ 資料の多様な活用方法の工夫

資料の授業での生かし方についても、例えば、主人公の心情を共感的に追う展開だけではなく、右のように、感動を大切に展開や問題解決的な展開などを考えることもできます。

- ・登場人物への共感を中心とした展開
- ・資料への感動を大切に展開
- ・問題解決的な思考を重視した展開
- ・登場人物の行為から学ぶ展開など

また、資料の内容に合わせて道徳の時間の一部でアイマスク体験などの模擬体験をしたり、ゴミの分別などの実際の活動を一部取り入れたりするなど、体験的な活動を併わせて実感的に資料の理解を深める方法も考えられます。

※資料は、道徳の時間の主題を構成する大きな要素の一つであり、よい資料を選び、開発することが、魅力的な授業づくりには欠かせません。



道徳だより

平成20年10月14日
No. 7
小松工業高校 総務部

★「いい話」は「きれいごと」？

あるところに、腕はいいが、あまり売れない手品師がいました。ある日、手品師は街角で少年に出会います。その少年は、父親を早くに亡くしており、そのために母親が働きに出ているため、寂しい思いをしているといいます。そこで、手品師は、少年を励まそうと、次の日、少年に手品を見せることを約束します。ところが、まさにその約束の日に、大劇場に出演するという、またとないチャンスが手品師のもとに舞い込んできます。大劇場に出演することは、手品師の長年の夢でした。考え悩んだ末、手品師は、少年との約束を守るべく、大劇場への出演を断りました。

この物語を読んだ人の感想は大きく次の二つに分かれます。

生徒A：

「いい話だ」
「日常生活でつい忘れがちなこと気づかされた」

生徒B：

「きれいごとだ」
「出演を断らなくてもすむ方法はあるはずではないか」

これら二つの感想は一見、対立しているように見えますが、実は資料を異なるレベルで読み解いていると考えることもできます。つまり、前者は、物語の読者としての視点から感想を述べており、後者は、当事者としての視点から手品師の行為を吟味し批判している、と考えられるからです。

私たちの日常生活を振り返ると、手品師のような葛藤状況に立たされた時、たいていの人は、人のためになると同時にある程度は自分の欲求も満たされるという道を何とか模索しようとするのではないのでしょうか。

では、「人のため」と「自分のため」を両立させようとする事は、ただひたすら純粋に「人のため」を考えることよりも、道徳的に価値の低い行為なのではないのでしょうか。少年に共感し、彼と心を通い合わせようとするなら……。



道徳だより

平成20年10月16日
No. 8
小松工業高校 総務部

★魅力的で多様な「在り方生き方」の 授業を構想しよう - 道徳編 その3 -

学習活動や指導体制などに工夫する

◎ 多様な学習活動の取り入れ

道徳の時間での学習が実感が伴うものとなり、より生きて働くものとなるように、学習活動を工夫したいものです。

- ・ 日常体験や学習体験を生かす工夫をする
- ・ 多様な表現活動の工夫をする
- ・ 観察や調査、取材などの活動を取り入れる
- ・ 話し合いの進め方を組織化し工夫するなど

◎ 学習の場の設定の工夫

教室での学習において、座席形態を工夫することはしばしば見られますが、学習の場自体を、特別教室や校庭、学校外の場所にすることで、学習の幅を広げることができます。

- ・ 教室の座席等の形態を工夫する
- ・ オープンスペースや図書室等で行う
- ・ コンピュータなどの情報通信機器を活用する
- ・ 校庭や自然環境を生かした場で指導をする
- ・ 地域の図書館や博物館等を活用するなど

◎ 指導する時間の柔軟な発想

道徳の時間の授業は1単位時間に1主題を設定して行われることが多いようですが、重点内容の複数時間扱いや、他の教育活動との関連を図った展開などを工夫することも考えられます。

- ・ 1時間1主題を軸として弾力的に運用する
- ・ 重点内容などで複数時間扱いを考える
- ・ 授業時間の重点的な運用を工夫する
- ・ 他の教育活動との関連を考えるなど

◎ 多様な学習集団を生かす工夫

他校や地域の人との交流を生かすことや、ときには、学級の枠を越えることも考えられます。



道徳だより

平成20年10月17日
No. 9
小松工業高校 総務部

★在り方生き方教育と道徳の内容項目

※ 人間としての在り方生き方教育とは、自己をありのままに見つめ、自己に対する認識を深め、これを基盤として自らの目標を明確化し確立することを目的とした教育です。

これを実施するには、以下に示す4つのタイプが存在します。

- A：行為の変容を主とする指導（他律的行為を促す、しつけ等）
- B：内なる力の変容を主とする指導（自律性の涵養、道徳の時間等）
- C：体験を主とする指導（多様な体験が気づきを促す）
- D：環境を主とする指導（環境が人をつくる）

このような指導の総体を概念的、構造的に把握しておくことは、在り方生き方教育を実施するにあたってきわめて有効です。

※ 人間としての在り方生き方教育において指導すべき内容は、以下のよう
4つの視点で、それぞれ項目を挙げることができます。

1. 「主として自分自身に関すること」
 - (1)生活習慣・心身の健康・節度・節制 (2)希望・勇気・強い意志
 - (3)自律・自主性・誠実・責任 (4)真理・真実・理想の実現
 - (5)向上心・個性伸長
2. 「主として他の人との関わりに関すること」
 - (1)礼儀 (2)人間愛・思いやり (3)友情・信頼
 - (4)男女理解・異性観 (5)寛容・謙虚
3. 「主として自然や崇高なものとの関わりに関すること」
 - (1)自然愛・畏敬の念 (2)生命尊重 (3)強さ・気高さ・生きる喜び
4. 「主として集団や社会との関わりに関すること」
 - (1)社会的役割と責任 (2)法やきまり・権利と義務
 - (3)公德心・社会連帯 (4)正義・公正・公平 (5)勤労・奉仕
 - (6)家族愛 (7)愛校心 (8)郷土愛・先人への感謝
 - (9)愛国心・伝統と文化 (10)国際理解

※ ある具体的な場で道徳的行為がなされる場合、それぞれの内容項目が単独ではなく相互に深い関連をもっていることを十分に把握し、総合的な指導を行うことが肝要です。



道徳指導計画（例）

1. 主題名 「公德を大事にする心」内容項目4－（3）（公德心、社会連帯）
2. 資料名 「己の欲するところ人に施せ」（「学研 かけがえのないきみだから3年」）
3. 本時の指導
 - （1）ねらい：社会の一員としての役割と責任を自覚し、公德を守るとともに人々の連帯意識を高めて、よりよい社会を実現しようとする心を育てる。
 - （2）展開
 - 基本発問 ○中心発問 ○期待する生徒の反応

議題	学習活動（主な発問）	予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入 5分	1. 「自分だけがよければいい」という行動に接した経験を発表し、本時の学習の方向付けをする。 ○「自分だけがよければいい」というような自分勝手な行動に接したことがありますか。	・ゴミのポイ捨て。 ・電車の中で大声で騒ぐ。 ・自転車をきちんと駐車しない。	・クリーン作戦の感想を提示し、ポイ捨てが身勝手な行動だと確認し、発表のきつかけとする。
展 開 35分	2. 資料（前半）を読んで考える。 ①一つ目の出来事について考える。 ○近寄ろうともしない周りの人をどう思いますか。 ○若者は、紳士の介抱を受けてどのような気持ちになったでしょうか。 ②二つ目の出来事について考える。 ○見てみぬふりをしている乗客をどう思いますか。 ○警官に助けられたときの車掌の気持ちはどうだったでしょうか。 ◎「何もしなかった。だからこそ逮捕されなければならない。」と言われた乗客はどう思ったでしょうか。	・若者の自業自得だから、仕方ない。 ・余計なことにかかわるのはいや。 ・手を貸してあげてもいいと思う。 ・恥ずかしい。 ・ありがたい。 ・もう二度とこのようなことはしたくない。 ・自分が悪いのに怒っているのかしい。 ・自分が巻き込まれたら困るので仕方ない。 ・見てみぬふりは良くない。 ・助かってよかった。 ・周りの人たちは冷たいなあ。 ・もう少し勇気を出して、行動できればよかった。 ・自分のことしか考えていなかったなあ。 ・もう少し自分できることを考えればよかった。	・教師が範読する。 ・自分だったらどうするだろうかと切り返しの発問をする。 ・自分の行動を恥じ、このことをくり返さないように思えたことに気づかせる。 ・自分だったらどうするだろうかと切り返しの発問をする。 ・なかなか行動に移す勇気が出てこない弱さもあることも認める。 ・逮捕されるほどのことでもないという考えの生徒に対してはそのような人が増えていったら社会はどうなるかと問いかける。
終 末 10分	3. 資料（後半）を読み、本時のまとめを行う。 ○社会生活を送る上で、社会の一員としてどんなことを心がけたらよいのだろうか。	・他の人の迷惑になることはしない。 ・困っている人を見たら助けてあげる。 ・自分がしてもらいたいことを、他の人にもしてあげる。	・「己の欲せざるところ、人に施すことなかれ」の意味を補足説明する。 ・多くの生徒に発表させる。

（3）評価及び評価の方法

社会の一員としての役割と責任を自覚し、公德を守るとともに人々の連帯意識を高めて、よりよい社会を実現しようとする気持ちが高まったか。（ワークシートへの記入内容で評価）

道徳だより

平成20年10月20日
No. 10
小松工業高校 総務部

★道徳の時間で陥りがちな発問での問題と改善の着眼点

※下のような発問も授業で生かされますが、不用意な発問や気になる指導になりがちなので留意しましょう。

	おちいりやすい発問の問題(例)	改善の着眼点(例)
導入	▲「～してしまったことはないか」などといわゆるマイナス経験を問い、告白的で暗い導入になる。	⇒話合いの前向きな雰囲気や大事にして答えやすい発問などを工夫する(一枚絵や教師の体験談、設定場面で問題意識のもてる導入を工夫する等)。
展開	▲「～はどうか」「～は何か」など、答が一つに閉じられた発問だけを繰り返す。 ▲「～はなぜか」と理由や原因を問うことばかりを繰り返す。 ▲「～の気持ちはどうか」と心情を問うことのみを繰り返して、平板な授業になる。	⇒発言の内容が多様になる、自由度のある開かれた発問を中心とするように努める。 ⇒主人公に身をおいて考えられる機会をつくり、共感的に追求できるような発問を大事にする。 ⇒発問に見通しをもたせて、できるだけ生徒にとって必然性のある共感的な発問になるようにする。
終末	▲「どんなことが分かったか」「これからどうしたいか」などと理解を語らせたり決意を求めたりする。	⇒各自の体験に目を向けたり、教師の願いを語ったりする。生徒がこれからの自分を自ずと語りたくなるような雰囲気をつくることは大切。 等

※道徳の時間の指導において、人間性についての深い理解の上に立って、ねらいの根底にある道徳的価値を生徒が主体的にとらえ、人間としての生き方の自覚を深めることが大切です。

※そのためにも、資料に描かれた道徳的価値を自分の問題として受け止め、深く自己を見つめることが可能となるよう、発問の工夫が求められます。

※なお、道徳の時間における発問には、「中心発問」と「基本発問」及びそれらを補助するための「補助発問」があります。



道徳だより

平成20年10月22日
No. 11
小松工業高校 総務部

★在り方生き方教育を充実させ、生徒の道徳性を育成するために

- 1 道徳教育全体計画の確認
「絵に描いた餅」になっていないでしょうか？ 年度始めに作成し、年度末まで見ない・・・ような全体計画になっていないでしょうか？
- 2 学校行事やLHの年間指導計画との関連性を十分吟味する
年度当初に予定・計画された学校行事やLHの年間指導計画との関連等、指導計画を十分吟味することが必要です。
- 3 体験活動と在り方生き方教育の関連を押さえる
前項とも重なりますが、学校全体でまた学年で一年間に様々な活動を計画しています。それらの活動を通して生徒につかませたいねらいとともにどういった道徳性を育もうと考えているのでしょうか。その活動の前後での在り方生き方の時間はどのような資料を用いて授業を考えたらいいのでしょうか。在り方生き方の時間と体験活動との関係は大変重要なものです。
- 4 在り方生き方の時間の充実
(1) 資料をしっかりと(十分すぎるくらい)読み込みましょう。
(2) 発問を吟味しましょう。
(3) 生徒との対話を重視しましょう。(ワークシートのあり方を考えましょう。)
(4) 生徒の発言によく耳を傾け、指導者自身素直な気持ちで深く聞き取りましょう。

※学校全体での教育活動(全教科・領域・学校行事等)を踏まえ、なんと言っても、一時間のロングホーム(在り方生き方)の時間を充実させることが重要です。生徒の実態を指導者としてできる限りつかみ、ともに道徳性が育っている実感を得られる授業の立案・改善を進めましょう。



道徳だより

平成20年10月24日
No.12(最終号)
小松工業高校 総務部

★在り方生き方教育を評価するには？

1 評価の内容

在り方生き方教育には、全教育活動を通して行われる道徳教育と、いわゆる道徳の時間の指導とがあります。そこで、在り方生き方教育の評価は、全教育活動を通しての道徳教育と、道徳の時間における指導の両方の指導によって評価が行われます。なお、評価には2つの側面があり、一つは、生徒の道徳性が指導や学習の結果どれだけ高められたかを確認すること、もう一つは、教師側の指導計画や指導方法がどれだけ適切につくられ、有効に活用されたかを把握することとされています。

2 道徳性の評価

道徳教育のねらいは、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養うことにあります。そこで、道徳性の評価は、このねらいに沿って行われるのが一般的です。

- ・道徳的心情の評価
- ・道徳的判断力の評価
- ・道徳的实践意欲と態度の評価

さらに付け加えて、道徳的習慣に関しても評価します。なお、道徳の時間に関する評価は、数値化等はしないものとされています。

具体的な評価の方法としては、観察による方法、面接による方法、質問紙による方法、作文による方法、投影法による方法、事例研究による方法などがあります(裏面参照)。

3 指導計画、指導方法の評価

指導計画の評価としては、道徳教育の全体計画の評価と年間指導計画の評価があります。また、指導方法の評価は、授業を通し実際の指導を踏まえて実践的に行われることが望まれます。具体的には、日常の授業を通して、自己評価を通して、教師集団の反省会を通して行われることが期待されます。進んで他の教師に授業を参観してもらったり、研究授業を行いたいものです。



具体的評価の方法

① 観察による方法

生徒の行動を観察し記録するものです。観察に際し注意すべきことは、生徒に対する先入観をもたないように努めることです。観察法は、生徒の外面的な行動は観察できても、内面にまで立ち入るには無理があることを理解しておく必要があります。観察により、生徒の包括的な記録をつくる際には、逸話記録法を用いるのがよいとされています。

② 面接による方法

生徒から情報や資料を得ることを目的として行われますが、質問をおしついたりするのではなく、生徒の主体性をもった意見や態度がうかがえるような答えを求めよう心がけることが大切です。受容的な態度で面接を進め、警戒心を起こさせないよう人間的な信頼関係が求められます。

③ 質問紙による方法

広く生徒理解のため用いられることが多い方法です。回答は文章や記号で行われますが、質問に対して正確に回答しなかったり、作為的な回答がなされるということもありますので、注意しなければなりません。

④ 作文による方法

自由に作文させたり、課題を与えて作文させることで、生徒の体験、意見、希望などを知ることができます。

⑤ 投影法による方法

心の深層に隠れている要求や願望は、直接調べたり、捉えることはできませんが、何らかの形で外に投影されるという考えに基づいた評価の仕方です。この方法をうまく利用すると、生徒の内面の感情を理解することができますが、結果の解釈が難しいということが挙げられます。

⑥ 事例研究による方法

これはある特別な事例について、その個人の生活史をできるだけ詳細に調べ、その個人の問題の性格とその形成過程を明らかにして、解決の方向を見出していくという方法です。

※ 道徳性の評価は、道徳の時間における評価で終始してはなりません。教育活動全体を加味して総合的に行うことはいうまでもありません。

道徳性の評価について、留意しなければならないことがあります。それは個人の人格や人権にかかわることがあるということです。それだけに、評価に関する資料の収集の仕方とか評価の結果の扱いは慎重に行わなければなりません。また、評価は指導に生かすものですからそのための工夫が必要です。